

## 第 4 次

枚方市子ども読書活動推進計画 (素案)

(別冊「参考資料」)

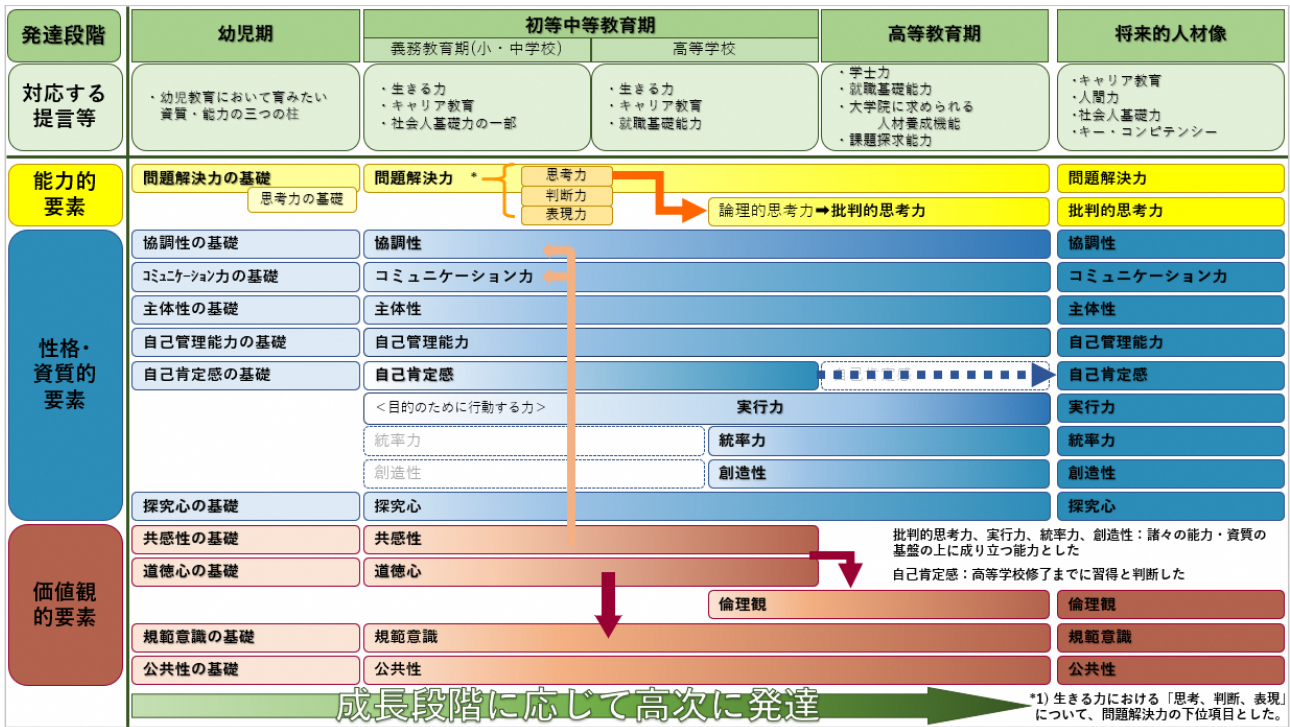
令和 3 年 (2021 年) 10 月

枚方市

## 2. 現代の子どもをめぐる社会状況と求められる能力の変化

(2) これからの時代を担う子どもに求められる能力

P10【注7】「各発達段階において習得が要求される非認知能力」の要素概念図



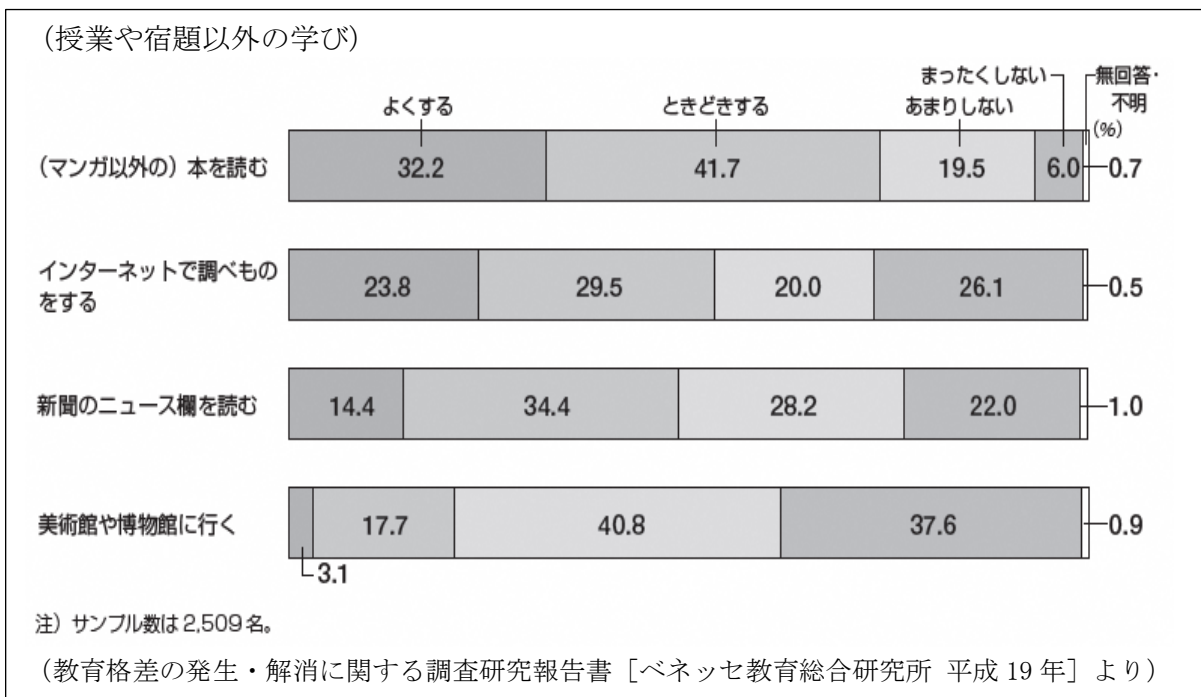
(「非認知能力」の概念に関する考察) [平成30年3月 日本生涯学習総合研究所] より

## 3. 読書が育む子どもの能力と求められる読書環境

(1) 読書により育まれる能力

① 子どもの読書活動と学力及び学力以外の能力との関連

P11【注8】



P11【注8】(続き)

(授業や宿題以外の学び [国語・算数学力との相関関係])

	全体 (%)	国語学力			算数学力		
		A層(%)	D層(%)	差(A-D)	A層(%)	D層(%)	差(A-D)
(マンガ以外の)本を読む	73.9	84.4	64.5	19.9	79.4	66.0	13.4
インターネットで調べものをする	53.3	56.6	46.8	9.8	56.5	47.0	9.5
新聞のニュース欄を読む	48.8	56.4	45.8	10.6	53.7	44.1	9.6
美術館や博物館に行く	20.8	24.7	19.5	5.2	24.6	18.3	6.3

注1) 数値は「よくする」と「ときどきする」の合計の比率。

注2) B層およびC層の数値は、表から省略した。

注3) サンプル数は全体2,509名。

(注) A層は国語・算数の問題を多く解いた層。D層は問題があまり解けなかった層。

(教育格差の発生・解消に関する調査研究報告書 [ベネッセ教育総合研究所 平成19年] より)

P11【注9】

(1) 「子どもに本や新聞を読むようにすすめている」と学力の関係

	小6					中3				
	国語A	国語B	算数A	算数B	%	国語A	国語B	数学A	数学B	%
あてはまる	69.4	56.6	81.5	64.4	29.1	80.7	72.8	68.2	47.2	22.5
どちらかといえばあてはまる	62.5	49.3	77.5	58.6	40.3	77.2	68.4	65.2	43.0	39.6
どちらかといえばあてはまらない	57.1	43.4	73.1	53.1	25.7	73.4	63.7	59.9	37.1	30.5
あてはまらない	54.0	39.5	69.7	49.4	4.9	70.0	59.7	55.7	32.4	7.4
合計	62.7	49.4	77.2	58.4	100.0	76.3	67.3	63.5	41.4	100.0

(2) 「子どもと読んだ本の感想を話し合ったりしている」と学力の関係

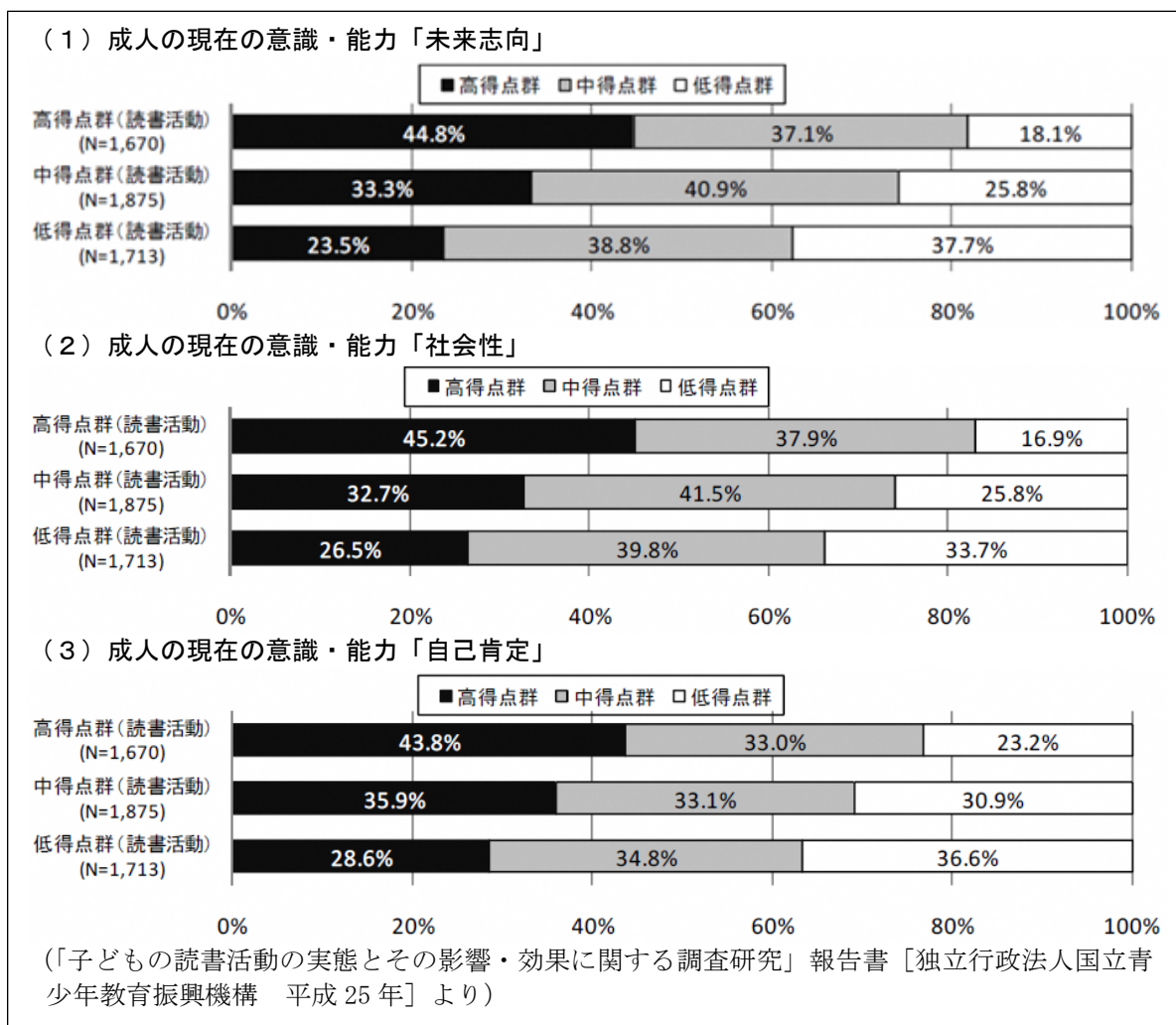
	小6					中3				
	国語A	国語B	算数A	算数B	%	国語A	国語B	数学A	数学B	%
あてはまる	69.9	57.5	81.2	64.9	10.3	82.9	76.3	69.9	49.6	8.2
どちらかといえばあてはまる	65.9	53.3	79.1	61.5	28.5	79.8	72.5	67.1	45.8	21.8
どちらかといえばあてはまらない	61.1	47.4	76.3	56.9	45.0	75.4	66.0	62.6	40.2	46.2
あてはまらない	57.3	43.0	73.8	53.0	16.2	72.6	62.2	60.2	36.9	23.7
合計	62.7	49.4	77.2	58.4	100.0	76.3	67.3	63.5	41.4	100.0

(3) 「子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをした」と学力の関係

	小6					中3				
	国語A	国語B	算数A	算数B	%	国語A	国語B	数学A	数学B	%
あてはまる	67.3	55.2	80.5	63.6	39.8	79.9	71.8	67.2	45.8	40.0
どちらかといえばあてはまる	61.9	48.1	76.5	57.4	33.9	75.3	66.3	62.7	40.3	33.1
どちらかといえばあてはまらない	57.6	43.2	73.6	53.1	20.9	72.8	62.3	59.7	36.4	21.1
あてはまらない	53.8	39.3	70.1	47.4	5.4	69.9	60.8	57.0	34.6	5.7
合計	62.7	49.4	77.2	58.4	100.0	76.3	67.3	63.5	41.4	100.0

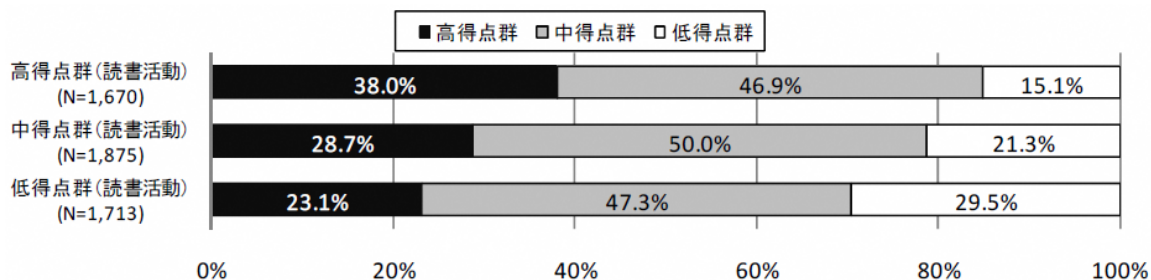
(「平成 25 年度全国学力・学習状況調査(きめ細かい調査)の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」[国立大学法人お茶の水女子大学 平成 26 年] より)

P11【注10】

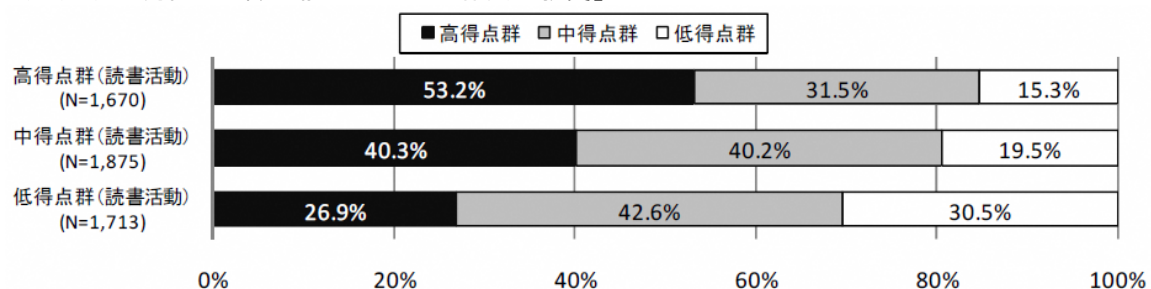


P11【注10】(続き)

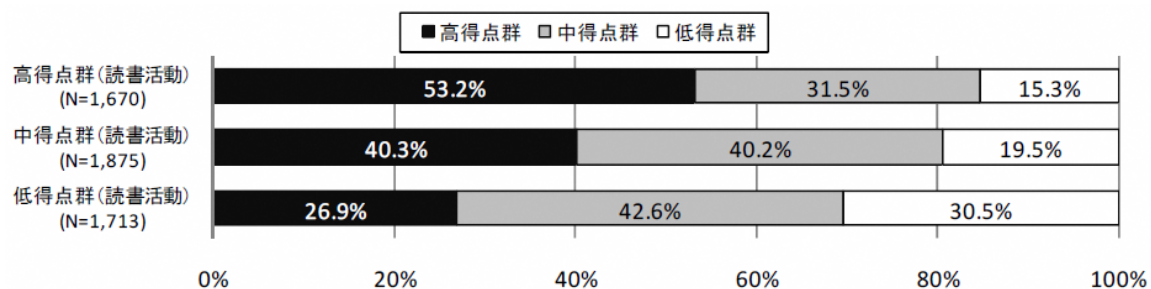
(4) 成人の現在の意識・能力「意欲・関心」



(5) 成人現在の意識・能力「文化的作法・教養」



6) 成人の現在の意識・能力「市民性」

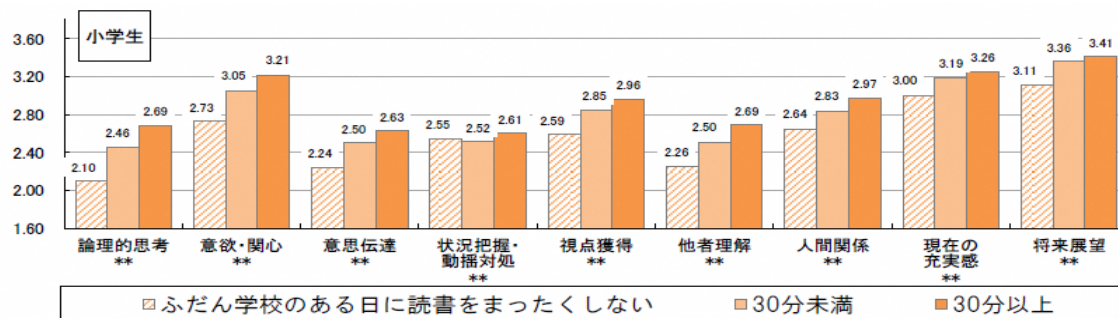


(注) \* 高得点群は「子どもの頃の読書活動が多い成人」で低得点群は「子どもの頃の読書活動が少ない成人」

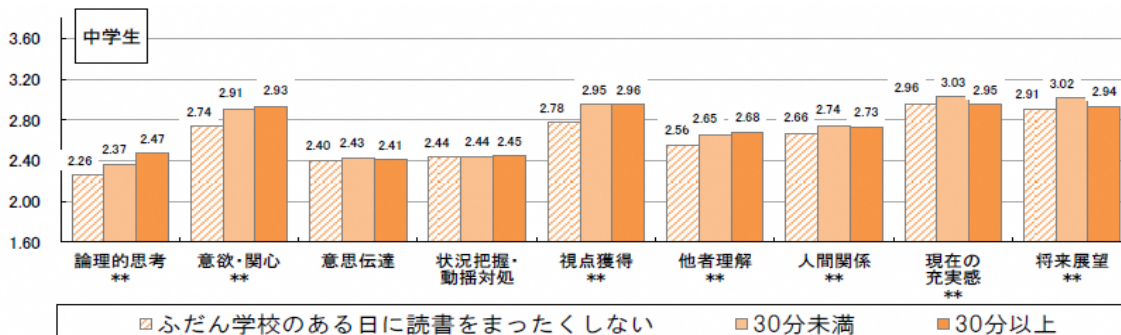
\* 本調査では、「文化的作法・教養」を「盆やお彼岸にはお墓参りに行くべきだと思う」「日本の昔話を話すことができる」「ひな祭りや子どもの日、七夕、お月見などの年中行事が楽しみだ」という意識・能力を持っているかどうかで調査している

(「子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究」報告書〔独立行政法人国立青少年教育振興機構 平成25年〕より)

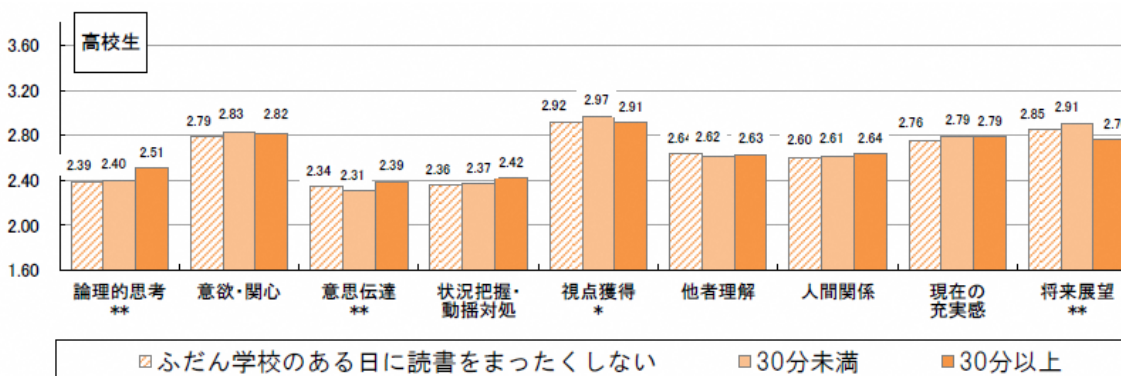
(1) 小学生



(2) 中学生



(3) 高校生



(注) \*\*: 1%水準で有意、\*: 5%水準で有意、記号がない場合: 有意差無し

(子どもの読書活動の推進等に関する調査研究報告書 [株式会社浜銀総合研究所 平成29年] より)

②子ども読書と読解力

P11【注12】

**全参加国・地域(79か国・地域)における比較** □ は日本の平均得点と統計的な有意差がない国

	読解力	平均得点	数学的リテラシー	平均得点	科学的リテラシー	平均得点
1	北京・上海・江蘇・浙江	555	北京・上海・江蘇・浙江	591	北京・上海・江蘇・浙江	590
2	シンガポール	549	シンガポール	569	シンガポール	551
3	マカオ	525	マカオ	558	マカオ	544
4	香港	524	香港	551	エストニア	530
5	エストニア	523	台湾	531	日本	529
6	カナダ	520	日本	527	フィンランド	522
7	フィンランド	520	韓国	526	韓国	519
8	アイルランド	518	エストニア	523	カナダ	518
9	韓国	514	オランダ	519	香港	517
10	ポーランド	512	ポーランド	516	台湾	516
11	スウェーデン	506	スイス	515	ポーランド	511
12	ニュージーランド	506	カナダ	512	ニュージーランド	508
13	アメリカ	505	デンマーク	509	スロベニア	507
14	イギリス	504	スロベニア	509	イギリス	505
15	日本	504	ベルギー	508	オランダ	503
16	オーストラリア	503	フィンランド	507	ドイツ	503
17	台湾	503	スウェーデン	502	オーストラリア	503
18	デンマーク	501	イギリス	502	アメリカ	502
19	ノルウェー	499	ノルウェー	501	スウェーデン	499
20	ドイツ	498	ドイツ	500	ベルギー	499
	信頼区間※(日本): 499-509		信頼区間(日本): 522-532		信頼区間(日本): 524-534	

読書活動と読解力の関係

◆日本を含む OECD 全体の傾向

- 本の種類にかかわらず、本を読む頻度は、2009年と比較して減少傾向にある。
  - ・「月に数回」「週に数回」読むと回答した生徒の割合  
 (例)「新聞」: 日本 21.5% (36.0ポイント減)、OECD 平均 25.4% (37.1ポイント減)  
 「雑誌」: 日本 30.8% (33.8ポイント減)、OECD 平均 18.5% (40.4ポイント減)
- 読書を肯定的にとらえる生徒や本を読む頻度が高い生徒の方が、読解力の得点が高い。中でも、フィクション、ノンフィクション、新聞をよく読む生徒の読解力の得点が高い。

◆日本の特徴

- OECD 平均と比較すると、日本は、読書を肯定的にとらえる生徒の割合が多い傾向にある。
  - ・「読書は、大好きな趣味の一つ」: 日本 45.2% (3.2ポイント増)、OECD 平均 33.7% (0.4ポイント増)
  - ・「どうしても読まなければならない時しか、読まない」: 日本 39.3% (8.2ポイント減)、OECD 平均 49.1% (7.8ポイント増)
- OECD 平均と比較すると、コミック (マンガ) やフィクションを読む生徒の割合が多い。新聞、フィクション、ノンフィクション、コミックのいずれも、よく読む生徒の読解力の得点が高い。

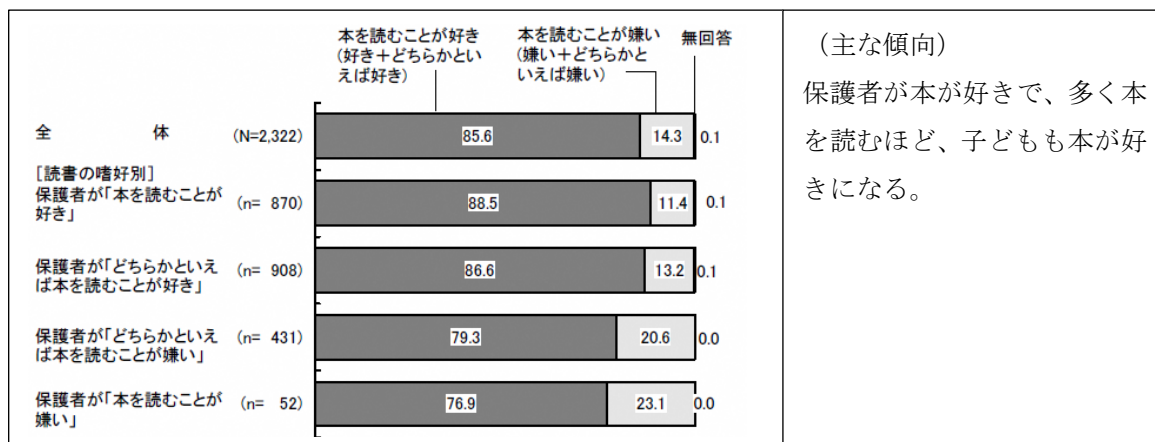
※「読書」には、本、ウェブサイト等多様な読み物を含み、デジタル機器による読書も含む。  
 ※読書や国語の授業に関する生徒への質問調査は、読解力が中心分野の時にしか行われなかったため、2009年調査の結果と比較。

(OECD 生徒の学習到達度調査 2018年調査 (PISA2018) のポイント [文部科学省・国立教育政策研究所 令和元年] より)

(2) 読書する子どもの育成のために求められる環境

①家庭内の読書環境の充実

P12【注13-1】



(親と子の読書活動等に関する調査 [日本経済研究所 平成16年度] より)

P12【注13-2】

子どもの読書活動を推進するための実施項目	好き(好き+どちらかといえば好き)の割合(%)		実施している場合と実施していない場合の差
	実施している	実施していない	
家に本をたくさん置く	89.9 (n=930)	84.0 (n=1392)	5.9
図書館に連れて行く	88.5 (n=1015)	83.5 (n=1307)	5.0
本のことについて話をする	87.7 (n=626)	83.9 (n=1696)	3.8
読書会や読み聞かせの会などに参加する	88.8 (n=585)	85.3 (n=1737)	3.5
自分(保護者)が読書している姿を見せる	88.0 (n=966)	84.8 (n=1356)	3.2
子どもが本を読んだらほめる	85.9 (n=250)	85.5 (n=2072)	0.4
本を買い与える	85.8 (n=1081)	85.5 (n=1241)	0.3

(主な傾向)  
「家に本をたくさん置く」「図書館に連れていく」を実施している家庭では、実施していない家庭と比べ、子どもが本好きである比率が5ポイント以上高い。

(親と子の読書活動等に関する調査 [日本経済研究所 平成16年度] より)



		一か月の間に読んだ本の数(児童・生徒調査)								
		0冊	1冊	2冊	3冊	4冊 5冊	7冊 9冊	10冊 20冊	21冊 以上	無回答
子どもに本を読み聞かせしていた時期(採種者調査)	全体 (N=2322)	11.4	14.6	15.6	11.5	17.4	9.9	10.9	8.3	0.5
	読み聞かせはしていない なかった(n=73)	16.4	15.1	8.2	12.3	15.1	9.6	11.0	11.0	1.4
	1歳になるまで (n=24)	16.7	16.7	12.5	12.5	4.2	12.5	16.7	8.3	-
	2歳になるまで (n=104)	10.6	14.4	13.5	9.6	17.3	9.6	11.5	11.5	1.9
	3歳になるまで (n=313)	10.2	16.9	19.5	13.4	17.6	9.9	8.3	4.2	-
	4歳になるまで (n=175)	10.3	17.7	20.0	7.4	14.9	12.0	8.0	8.6	1.1
	5歳になるまで (n=315)	12.4	12.7	19.0	10.2	18.7	10.8	8.6	7.6	-
	6歳になるまで (n=572)	12.1	14.2	16.4	11.7	17.8	8.9	10.7	8.0	0.2
	小学校低学年まで (n=499)	8.6	15.4	11.0	11.6	17.2	10.4	14.6	10.6	0.4
	小学校中学年まで (n=126)	11.9	8.7	11.1	11.9	19.8	11.9	12.7	11.1	0.8
	小学校高学年まで (n=46)	10.9	6.5	13.0	15.2	19.6	13.0	13.0	8.7	-

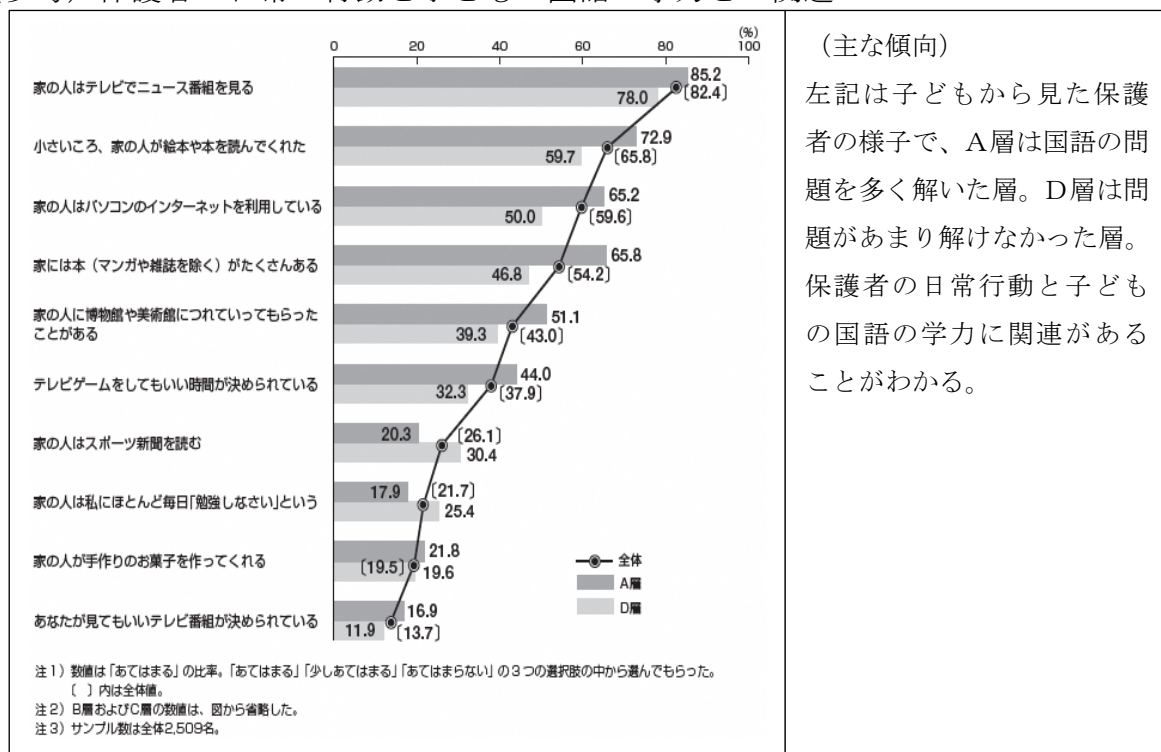
  

<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:yellow; border:1px solid black;"></span>	14.0%以上 15.0%未満
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:orange; border:1px solid black;"></span>	15.0%以上 17.0%未満
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:red; border:1px solid black;"></span>	17.0%以上

(主な傾向)  
読み聞かせをしている期間が長いほど、子どもが1か月に読む本の冊数が多い。

(親と子の読書活動等に関する調査 [日本経済研究所 平成16年度] より)

(参考) 保護者の日常の行動と子どもの国語の学力との関連

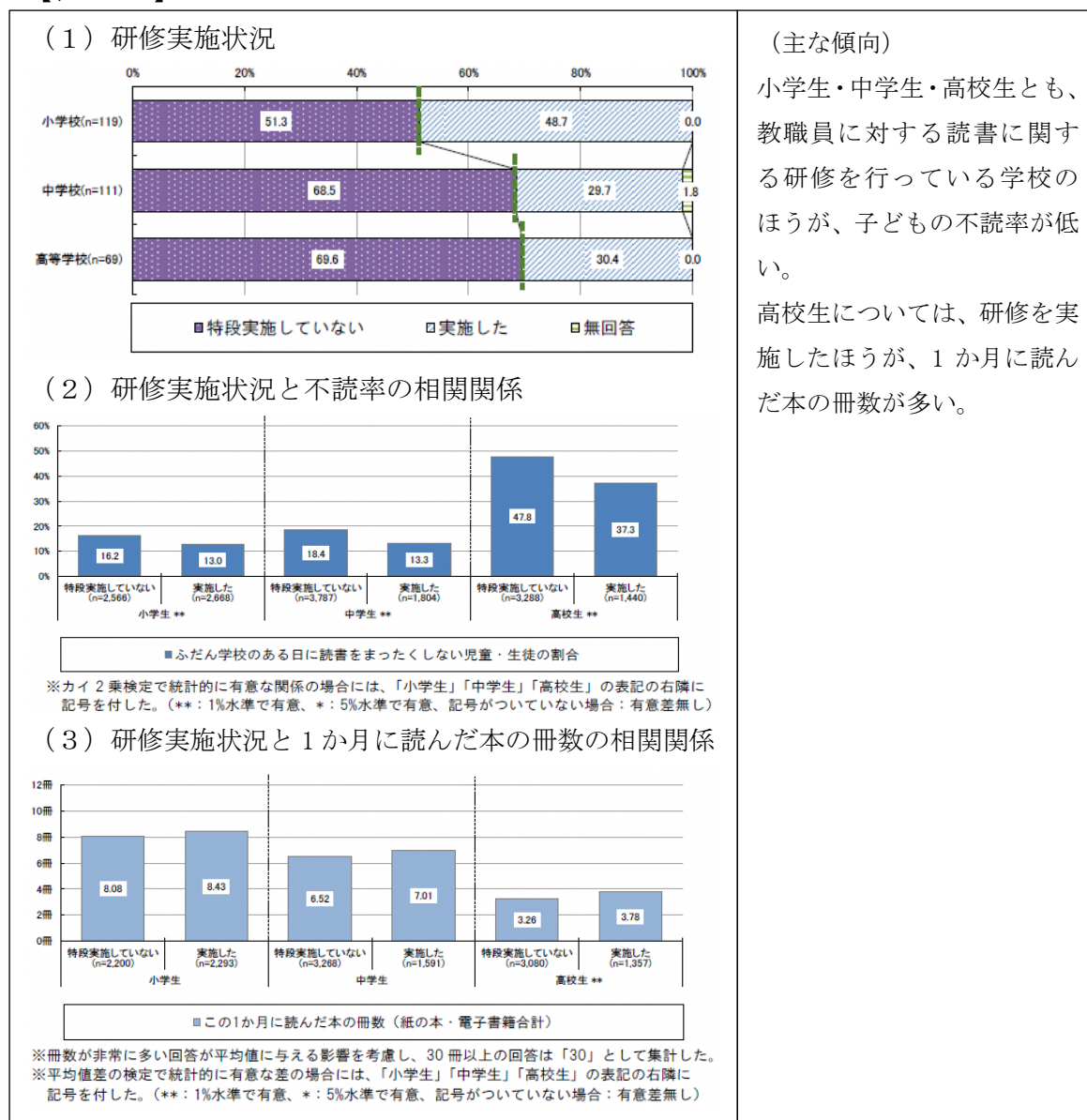


(主な傾向)  
左記は子どもから見た保護者の様子で、A層は国語の問題を多く解いた層。D層は問題があまり解けなかった層。保護者の日常行動と子どもの国語の学力に関連があることがわかる。

(教育格差の発生・解消に関する調査研究報告書 [ベネッセ教育総合研究所 平成19年] より)

## ②学校の読書環境の充実

P12【注14-1】



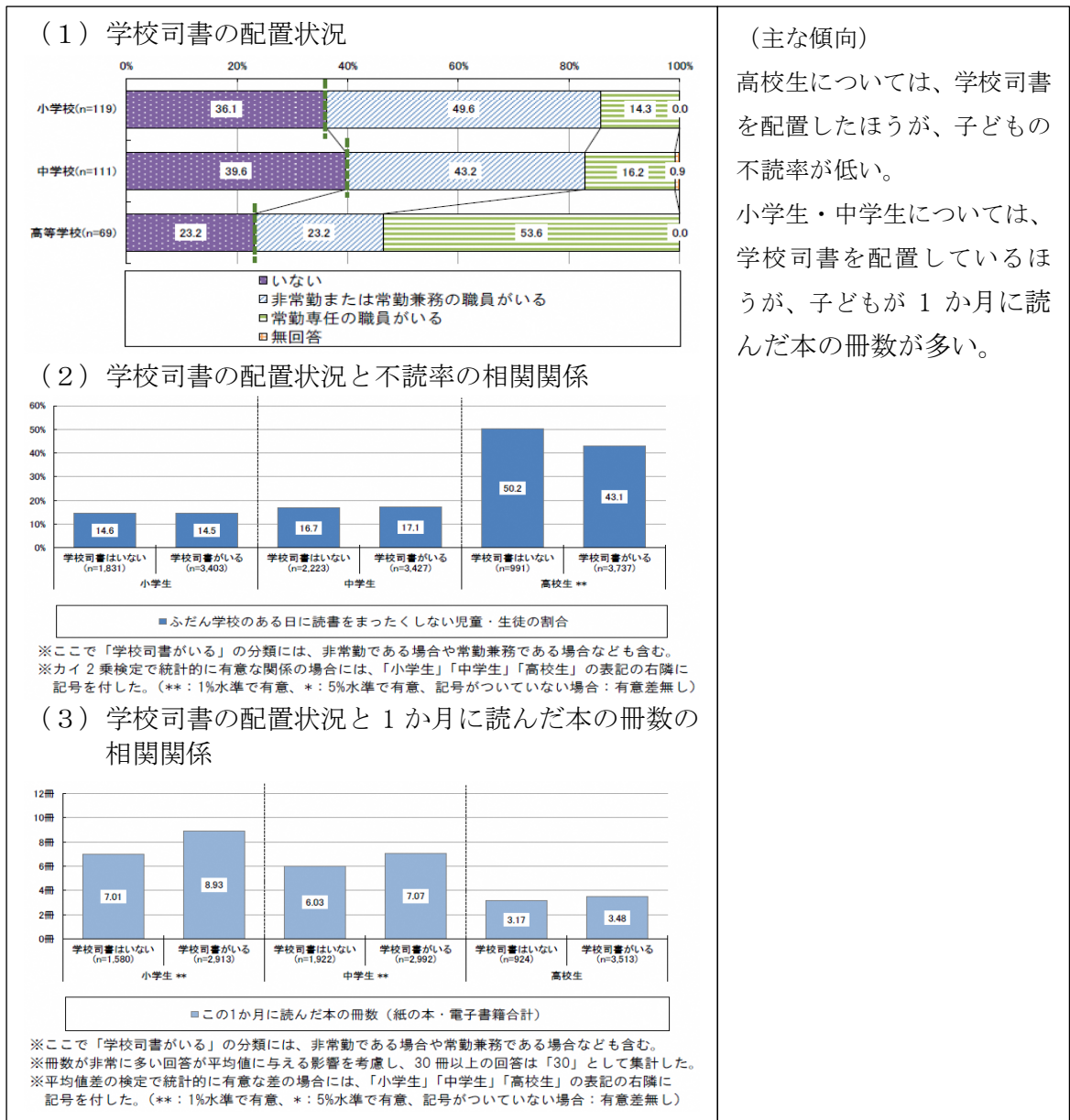
(主な傾向)

小学生・中学生・高校生とも、教職員に対する読書に関する研修を行っている学校のほうが、子どもの不読率が低い。

高校生については、研修を実施したほうが、1か月に読んだ本の冊数が多い。

(子どもの読書活動の推進等に関する調査研究報告書 [株式会社浜銀総合研究所 平成29年] より)

P12 【注 14-2】



(主な傾向)

高校生については、学校司書を配置したほうが、子どもの不読率が低い。  
 小学生・中学生については、学校司書を配置しているほうが、子どもが1か月に読んだ本の冊数が多い。

(子どもの読書活動の推進等に関する調査研究報告書 [株式会社浜銀総合研究所 平成 29 年] より)

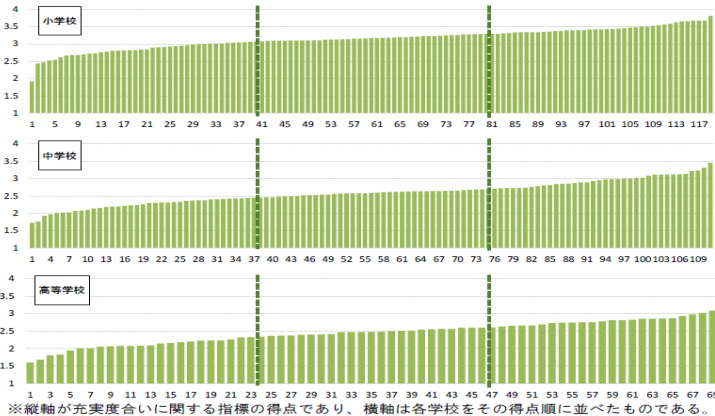
P12 【注 14-3】

(1) 充実の基準

児童・生徒の学校図書館に対する認識に関し、「学校の図書館(図書室)には読みたいと思う本がある」「学校の図書館(図書室)では読みたい本が見つけれられるように工夫されている」「学校の図書館(図書室)は居心地がいい」の3項目の質問に対する回答を充実度合いの指標として、それぞれの回答について「まったくそう思わない」を1点、「あまりそう思わない」を2点、「ややそう思う」を3点、「とてもそう思う」を4点として加算し、項目数で除して得点化した。

次の図は、低位の学校から高位の学校の順に並べたものである。

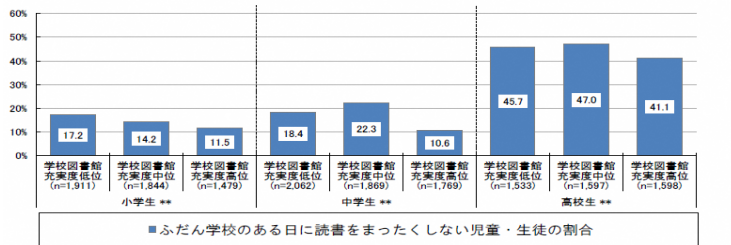
(2) 充実度の状況



(主な傾向)

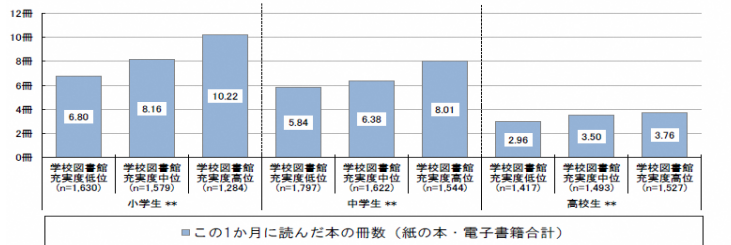
小学生・中学生・高校生とも、学校図書館が充実しているほうが、子どもの不読率が低く、また、子どもが1か月に読んだ本の冊数も多い。

(3) 充実度の状況と不読率の相関関係



※カイ2乗検定で統計的に有意な関係の場合には、「小学生」「中学生」「高校生」の表記の右隣に記号を付した。(\*\*)：1%水準で有意、\*：5%水準で有意、記号がない場合：有意差無し)

(4) 充実度の状況と1か月に読んだ本の冊数の相関関係

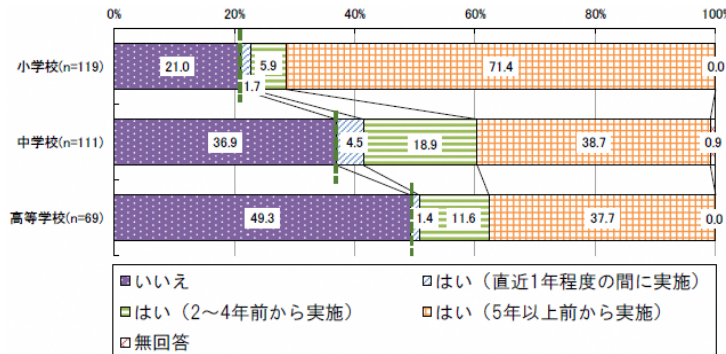


※冊数が非常に多い回答が平均値に与える影響を考慮し、30冊以上の回答は「30」として集計した。  
 ※平均値差の検定で統計的に有意な差の場合には、「小学生」「中学生」「高校生」の表記の右隣に記号を付した。(\*\*)：1%水準で有意、\*：5%水準で有意、記号がない場合：有意差無し)

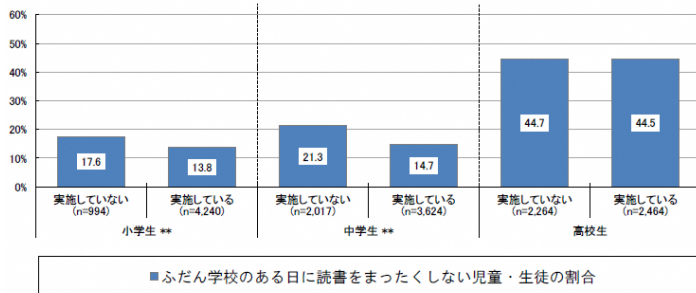
(子どもの読書活動の推進等に関する調査研究報告書 [株式会社浜銀総合研究所 平成29年] より)

P12【注14-4】

(1) イベント等の実施状況

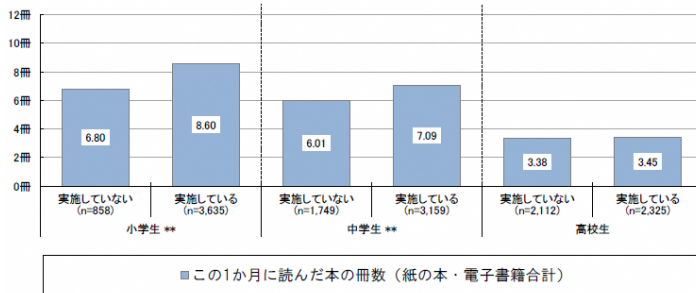


(2) イベント等の実施状況と不読率の相関関係



※カイ 2 乗検定で統計的に有意な関係の場合には、「小学生」「中学生」「高校生」の表記の右隣に記号を付した。( \*\*: 1%水準で有意、\* : 5%水準で有意、記号がついていない場合 : 有意差無し)

(3) イベント等の実施状況と1か月に読んだ本の冊数の相関関係



※冊数が非常に多い回答が平均値に与える影響を考慮し、30冊以上の回答は「30」として集計した。  
 ※平均値差の検定で統計的に有意な差の場合には、「小学生」「中学生」「高校生」の表記の右隣に記号を付した。( \*\*: 1%水準で有意、\* : 5%水準で有意、記号がついていない場合 : 有意差無し)

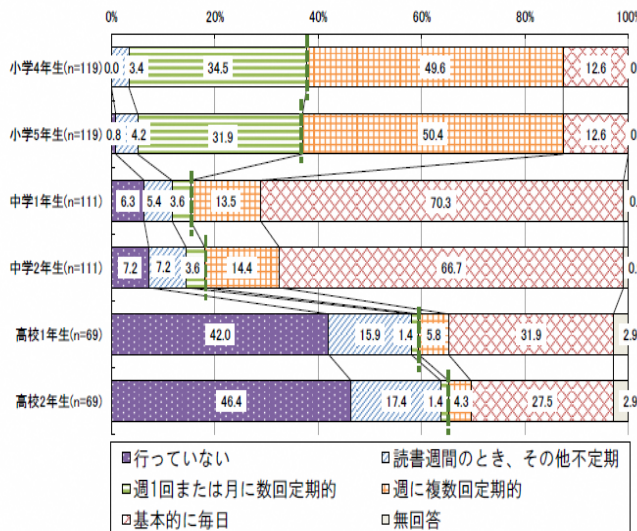
(主な傾向)

小学生・中学生については、イベント等を実施したほうが、子どもの不読率が低く、また、子どもが1か月に読んだ本の冊数が多い。

(子どもの読書活動の推進等に関する調査研究報告書 [株式会社浜銀総合研究所 平成 29 年] より)

P12 【注 14-5】

(1) 一斉読書の時間設定状況

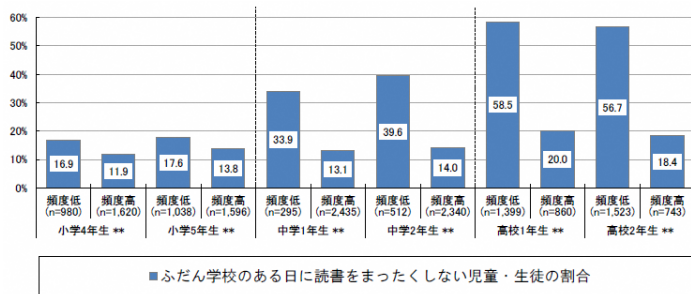


※「基本的に毎日行っている」「週に複数回、定期的に行っている」「週に1回、定期的に行っている」「月に数回程度、定期的に行っている」「読書週間のときに行っている」「その他、不定期に行っていない」の7の選択肢により回答を得たものを再分類して集計結果を掲載した。

(主な傾向)

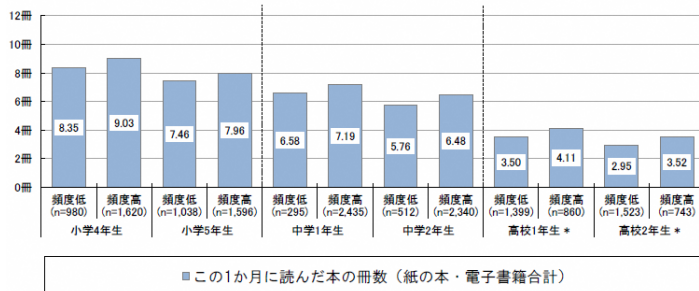
中学生は、半数以上の学校で、一斉読書を「基本的に毎日行っている」状況であることは注目に値する。

(2) 一斉読書の時間設定状況と不読率の相関関係



※カイ2乗検定で統計的に有意な関係の場合には、「小学生」「中学生」「高校生」の表記の右隣に記号を付した。( \*\*: 1%水準で有意、\* : 5%水準で有意、記号がない場合 : 有意差無し)

(3) 一斉読書の時間設定状況と1か月に読んだ本の冊数の相関関係



※冊数が非常に多い回答が平均値に与える影響を考慮し、30冊以上の回答は「30」として集計した。  
 ※平均値差の検定で統計的に有意な差の場合には、「小学生」「中学生」「高校生」の表記の右隣に記号を付した。( \*\*: 1%水準で有意、\* : 5%水準で有意、記号がない場合 : 有意差無し)

(主な傾向)

小学生・中学生・高校生とも、一斉読書の時間を多く設定しているほうが、子どもの不読率が低い。

高校生については、一斉読書の時間を多く設定しているほうが、子どもが1か月に読んだ本の冊数も多い。

(子どもの読書活動の推進等に関する調査研究報告書 [株式会社浜銀総合研究所 平成29年] より)

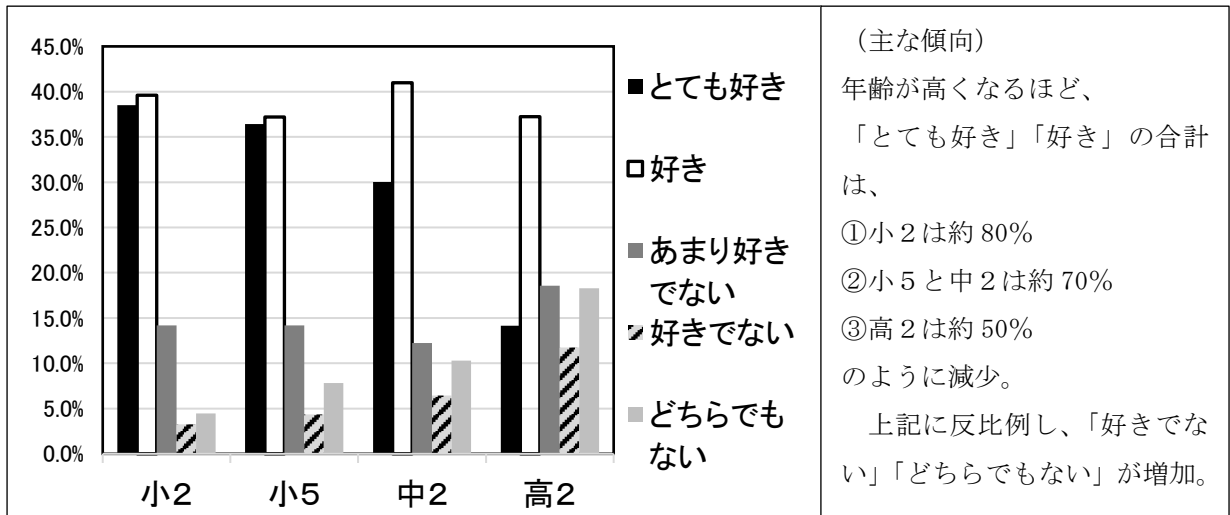
#### 4. 本市における子ども読書活動の現状と課題

(1) 本市における子どもの読書活動の現状とアンケート結果から読み取れる課題

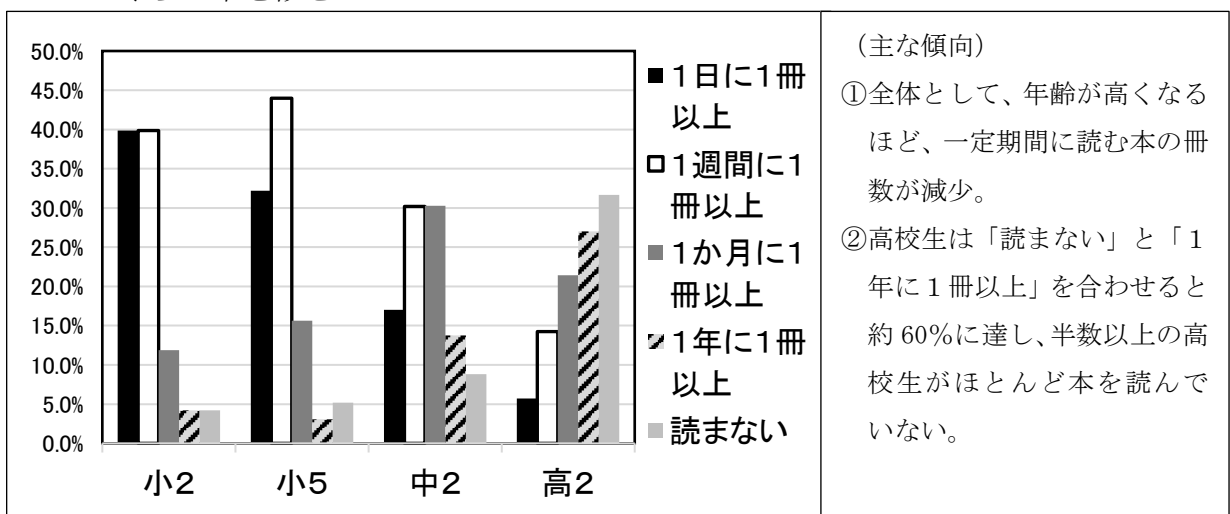
P18【注15】

【子どもへの質問】

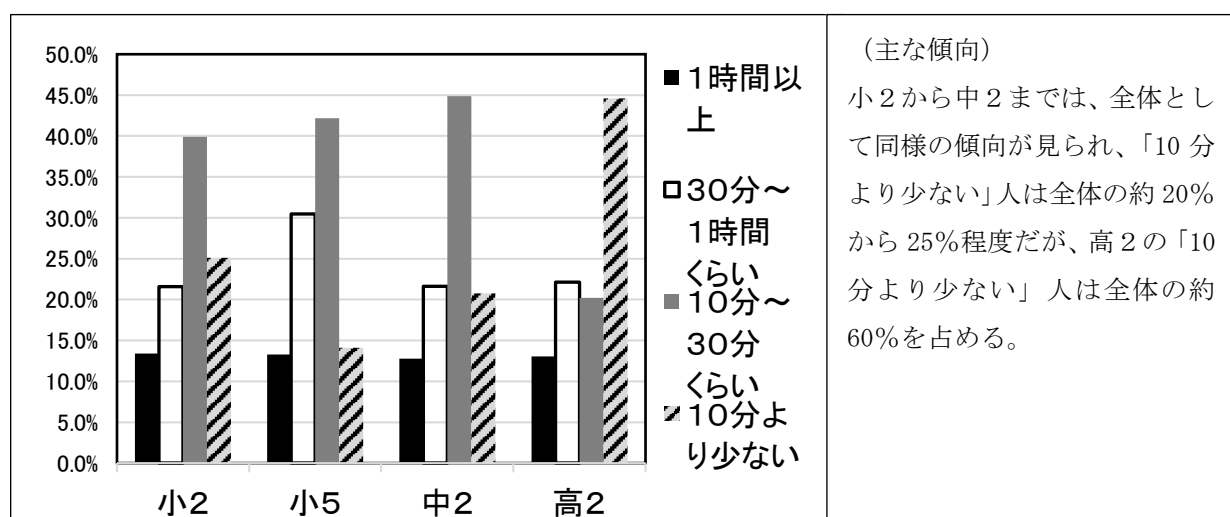
a. 本を読むことは好きか



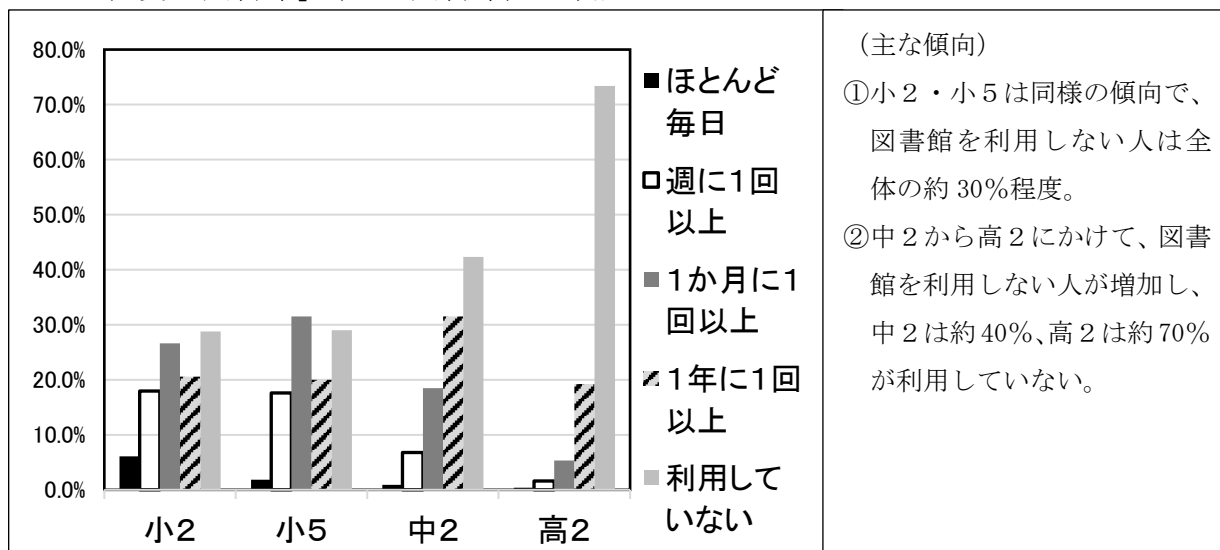
b. どのくらい本を読むか



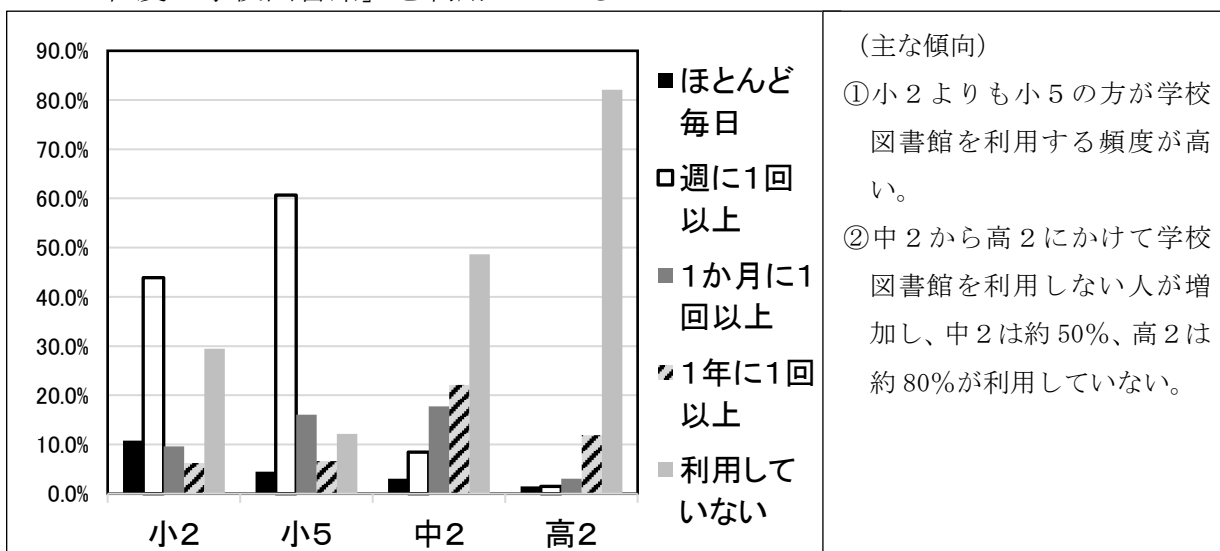
c. 1日の読書時間



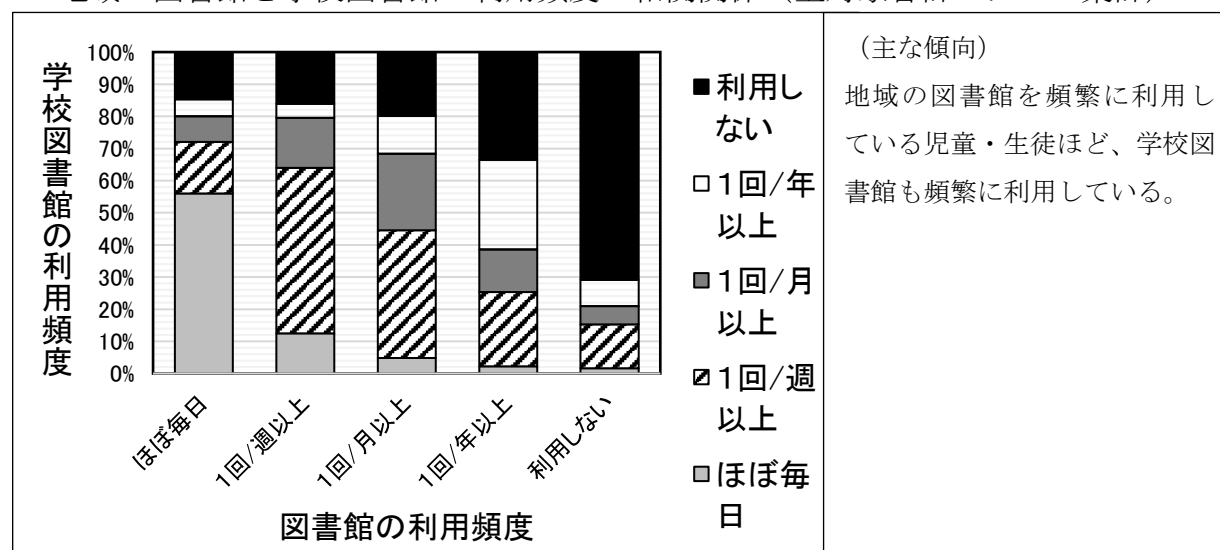
d. どの程度「図書館」（公共図書館）を利用しているか



e. どの程度「学校図書館」を利用しているか

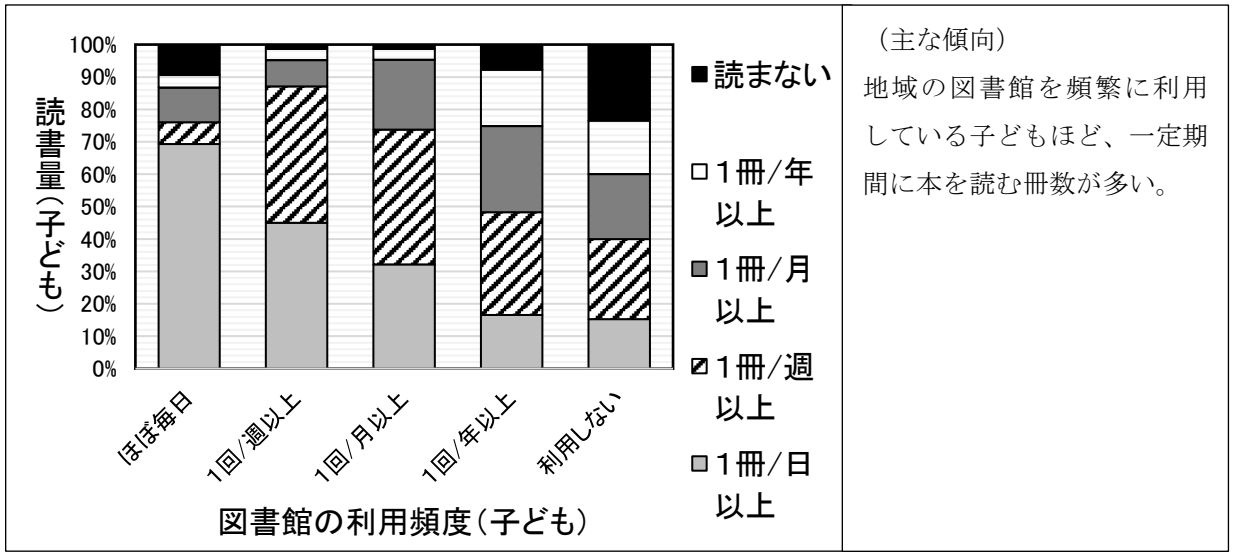


f. 地域の図書館と学校図書館の利用頻度の相関関係（全対象合計のクロス集計）

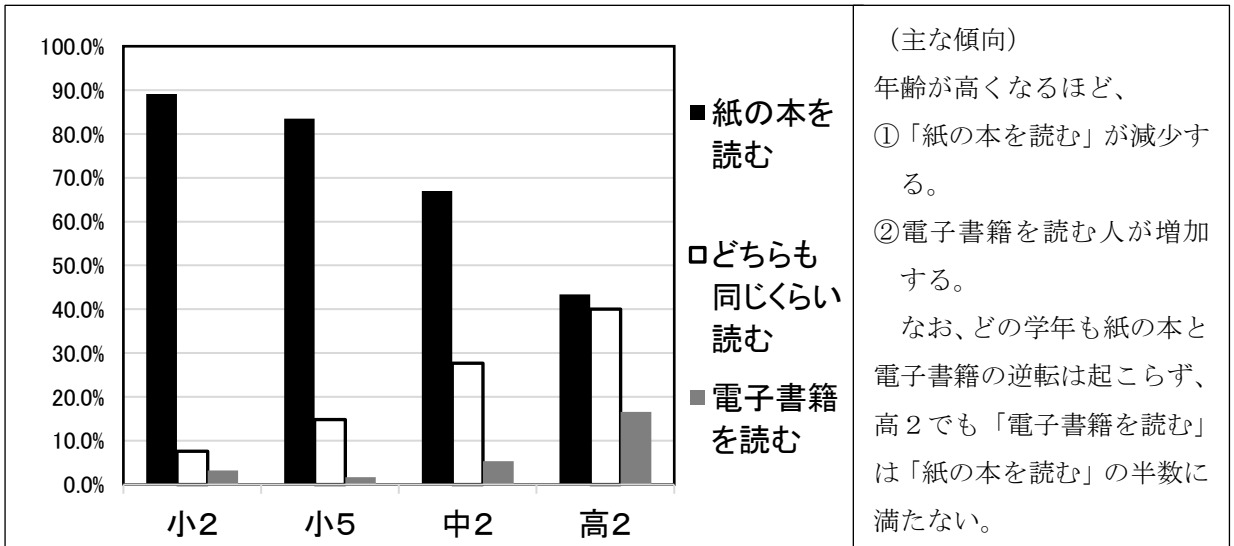




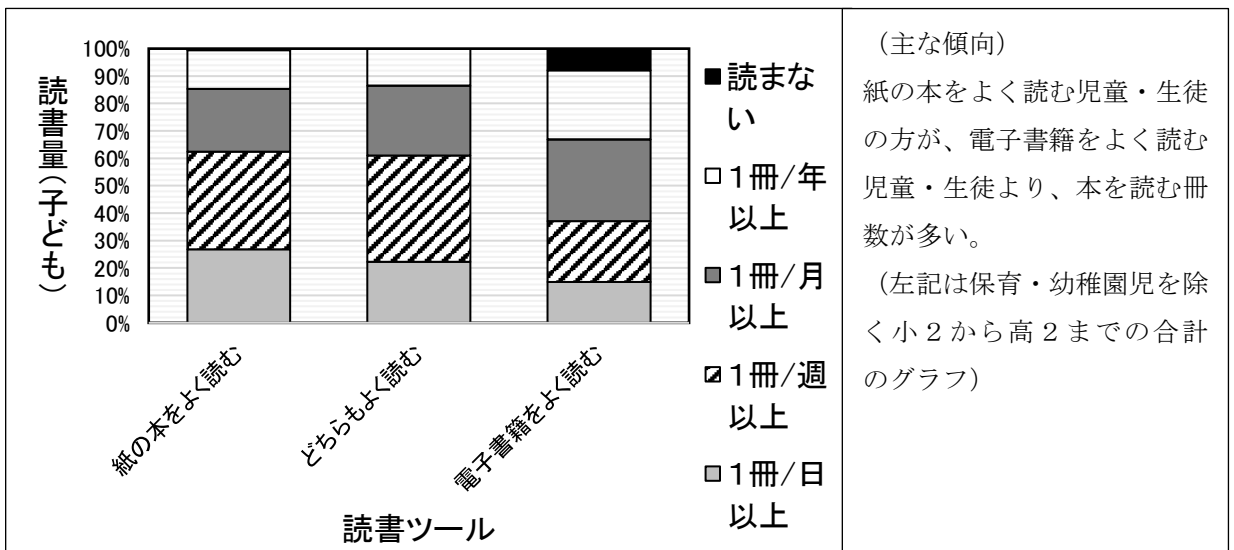
g. 地域の図書館利用と読書量との相関関係（全対象合計のクロス集計）



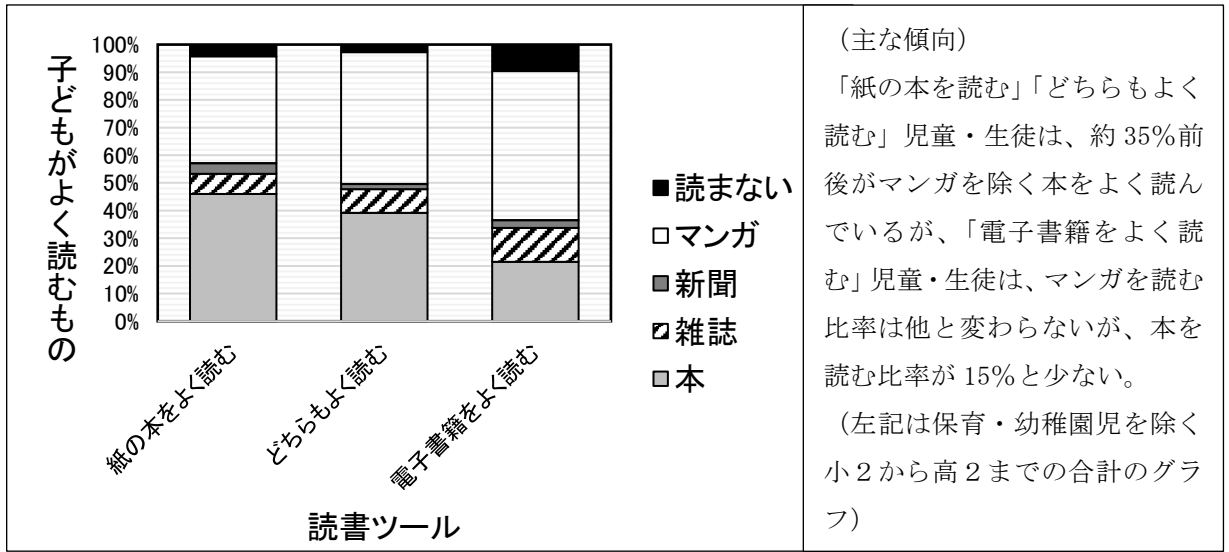
h. 本は紙の本を読むか、電子書籍を読むか



i. 読書ツール（紙・電子書籍）と読書量との相関関係（全対象合計のクロス集計）

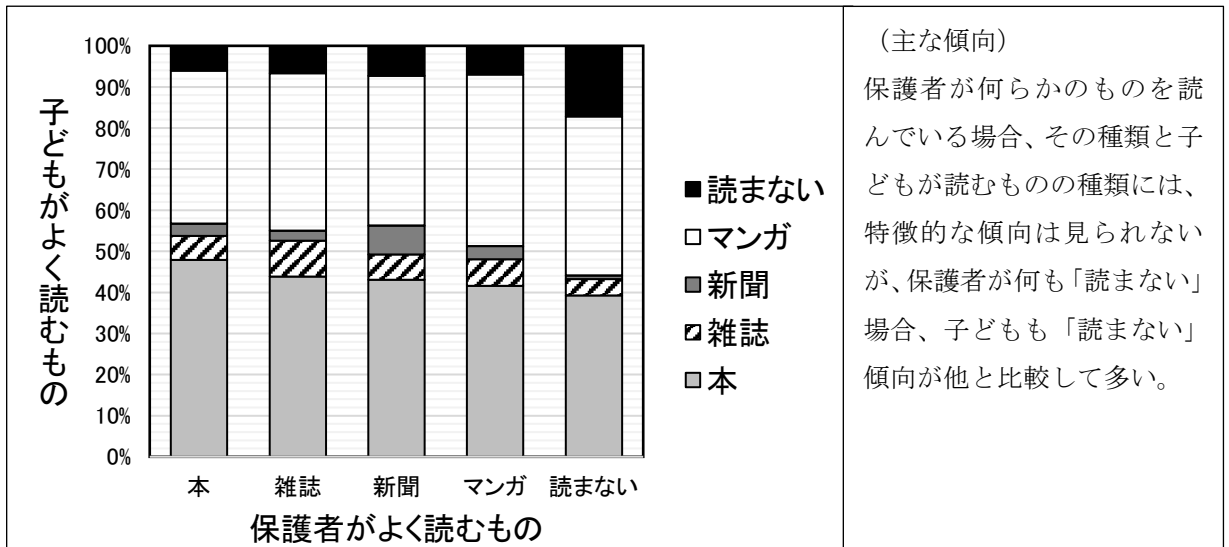


j. 読書ツール（紙・電子書籍）と子どもがよく読むものとの相関関係（同上）

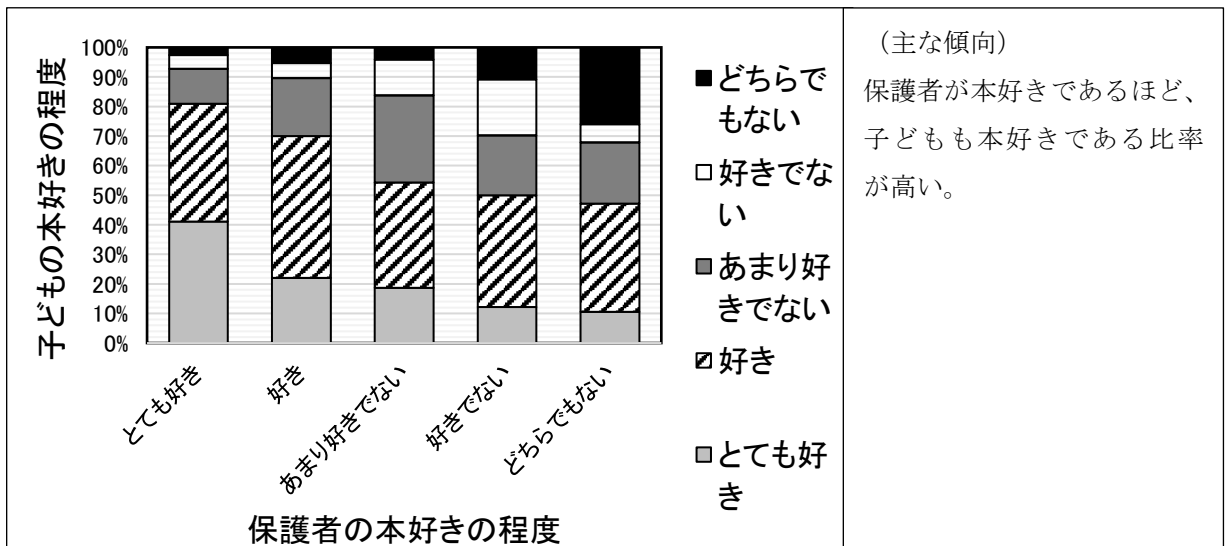


【保護者への質問】

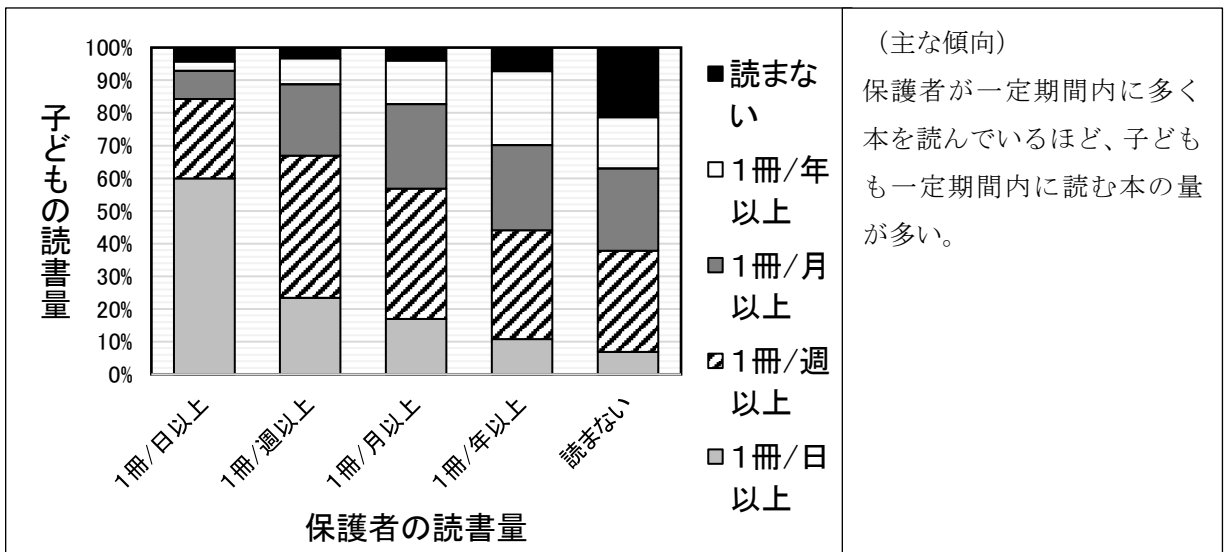
a. 保護者がよく読むものと子どもがよく読むものとの相関関係（全対象合計のクロス集計）



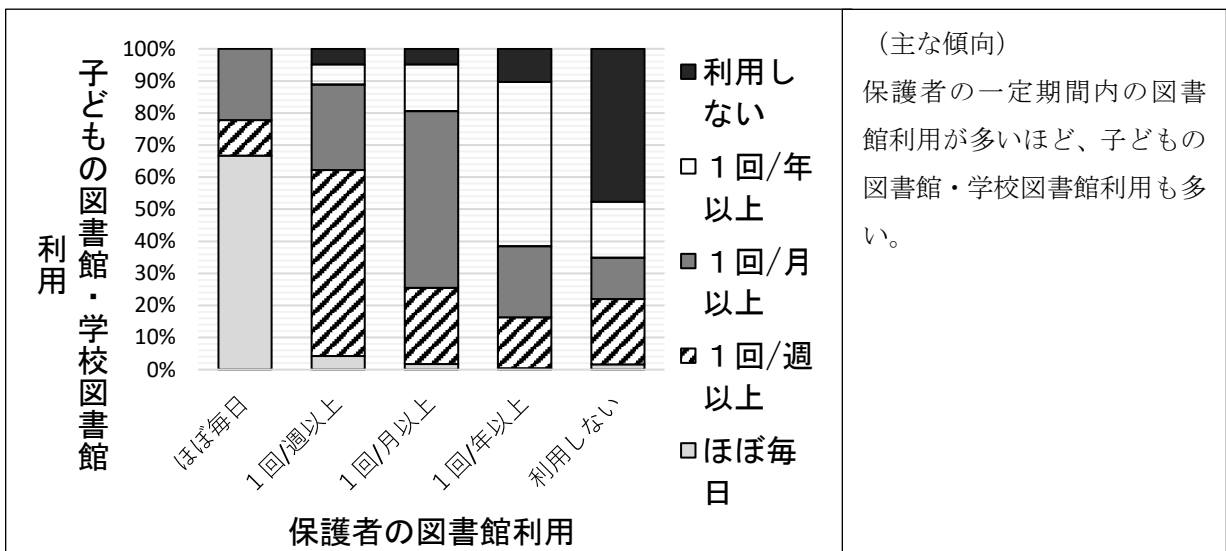
b. 保護者の本好きと子どもの本好きの相関関係（全対象合計のクロス集計）



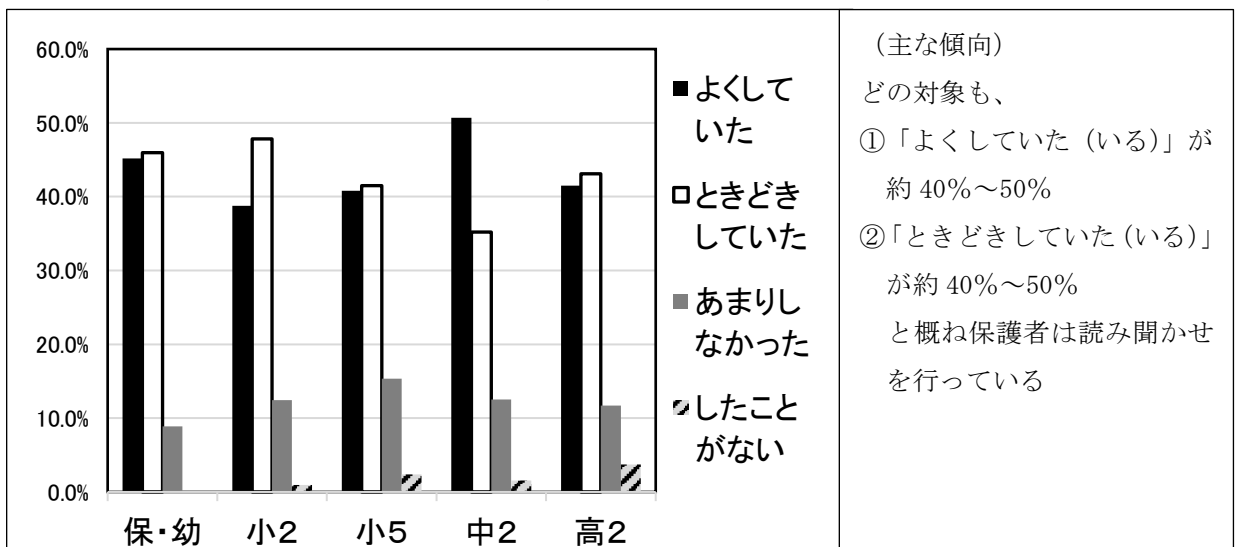
c. 保護者の読書量と子どもの読書量の相関関係 (全対象合計のクロス集計)



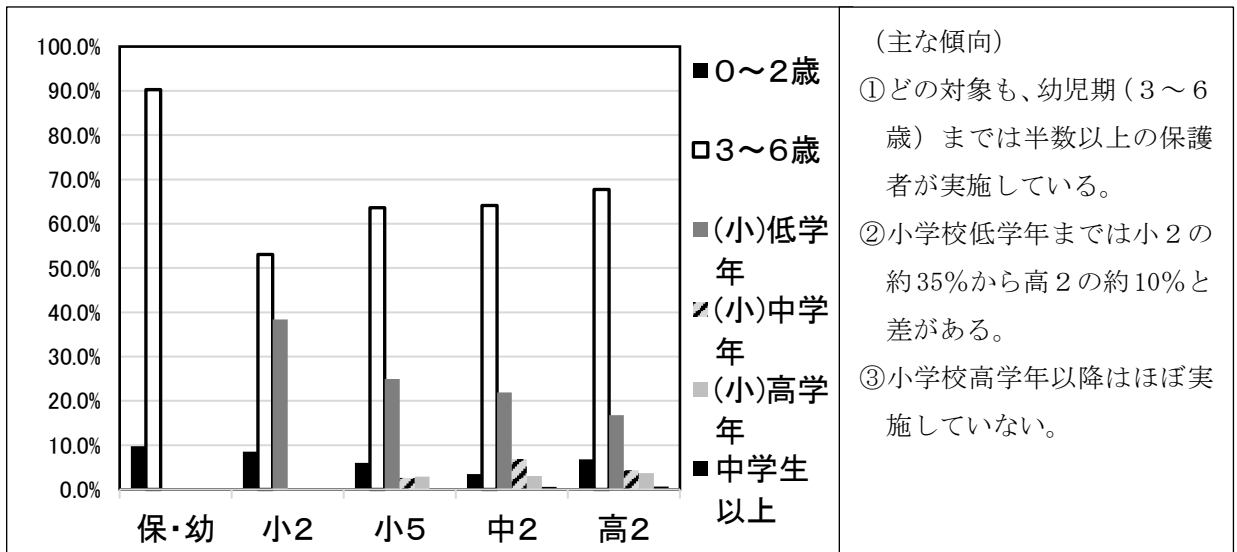
d. 保護者の図書館利用と子どもの図書館・学校図書館利用の相関関係 (同上)



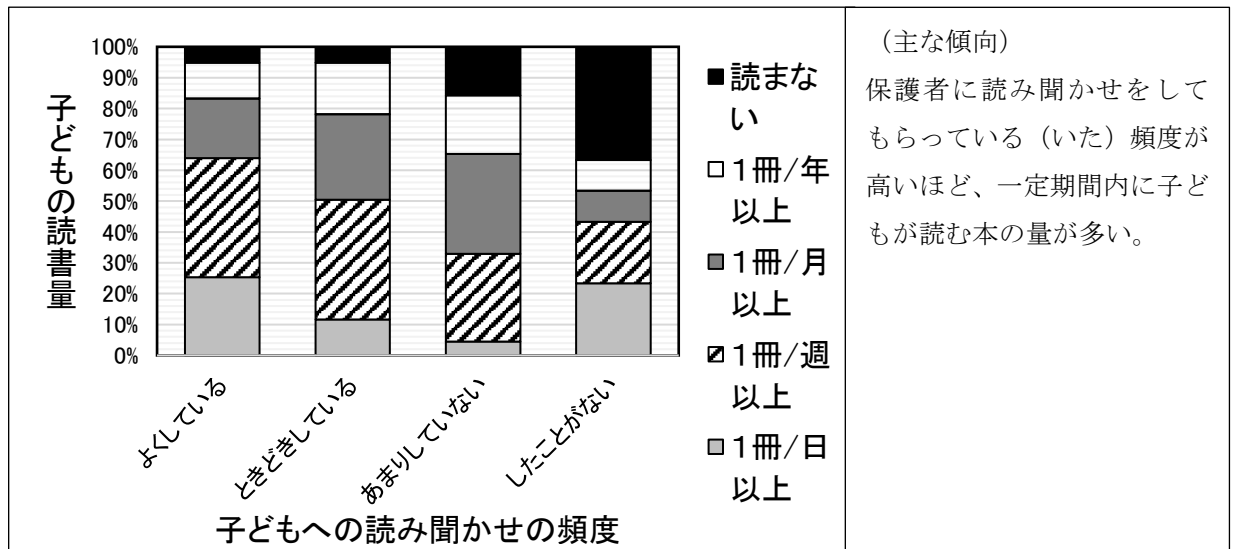
e. 子どもへの本や絵本の読み聞かせ経験の有無



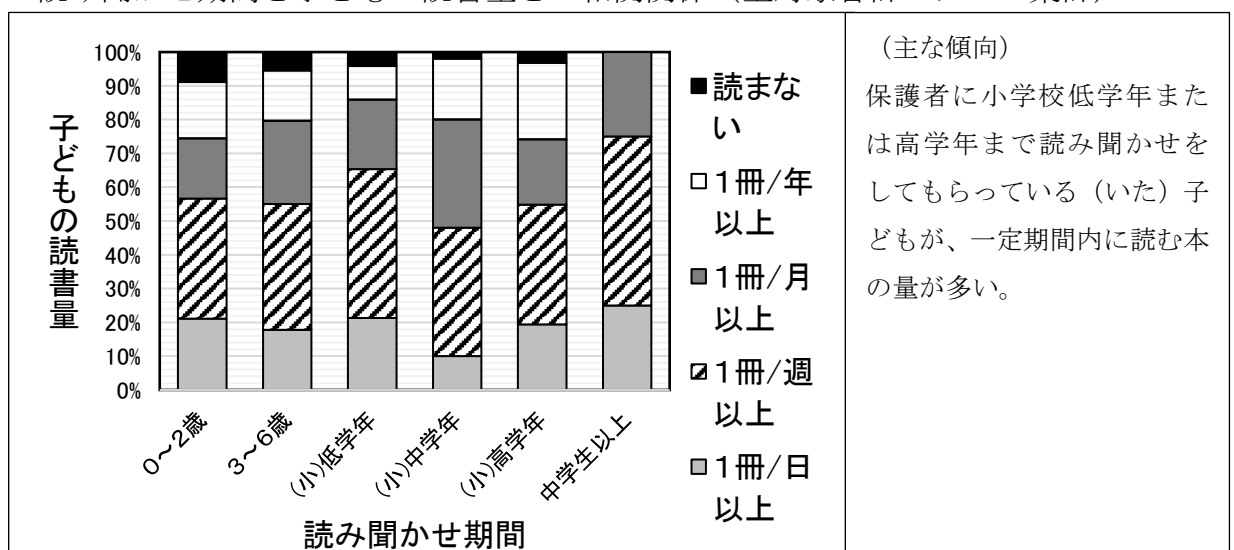
f. 何歳まで読み聞かせをしていた（いる）か（読み聞かせ体験のある場合）



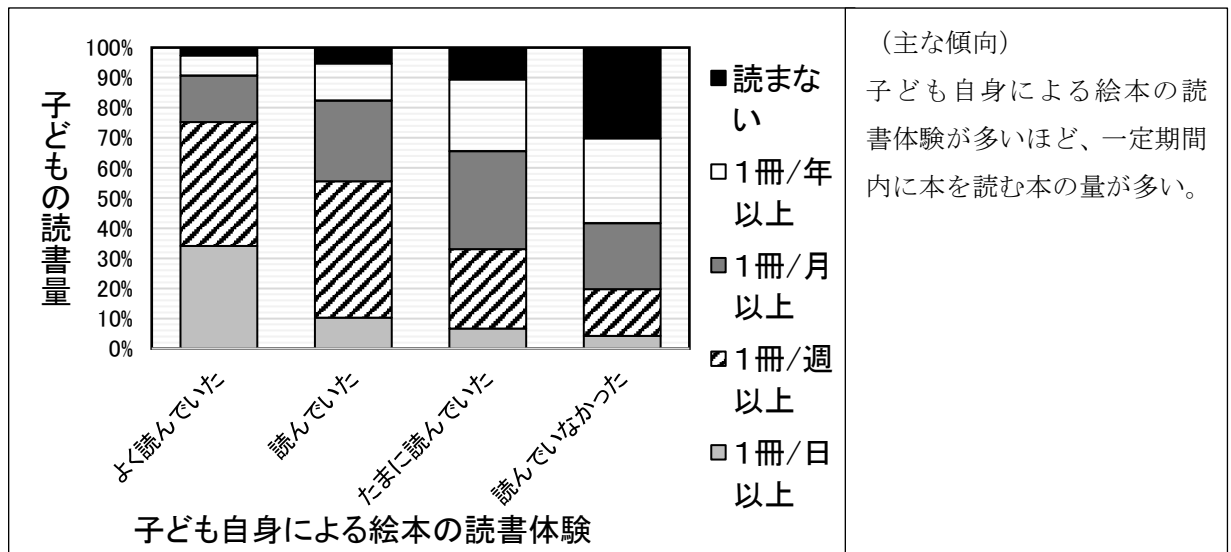
g. 子どもへの読み聞かせの頻度と子どもの読書量との相関関係（全対象合計のクロス集計）



h. 読み聞かせ期間と子どもの読書量との相関関係（全対象合計のクロス集計）



i. 子ども自身による絵本の読書体験と子どもの読書量との相関関係（同上）



(2) 配慮すべき社会状況を踏まえた課題

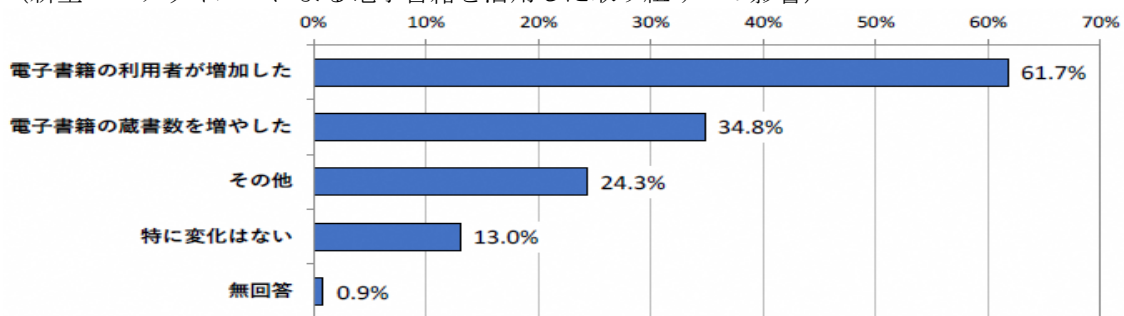
②読書バリアフリー法などを踏まえた多様な読書のバリアフリー事業の推進

P18【注 16-1】

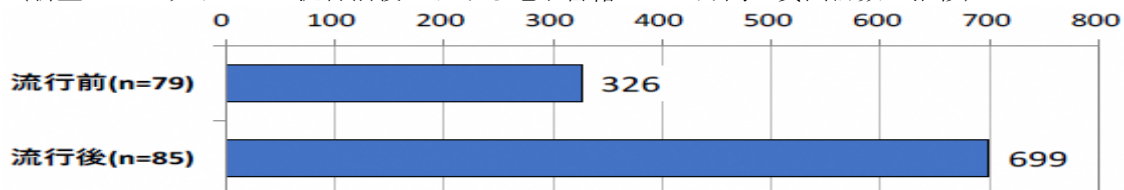
（参考）コロナ禍での電子書籍を活用した取り組みにおける変化

「令和2年度『子供の読書活動の推進等に関する調査研究』調査報告書〔株式会社リベルタス・コンサルティング〕」によると、「電子書籍の貸出を行っている公立図書館において、新型コロナウイルスの影響によって電子書籍活用の取組に変化があったかを聞いたところ、「電子書籍の利用者が増加した」が6割を超えている。また、新型コロナウイルスの流行前（2020年1月）と流行後（2020年7月）の1か月間の電子書籍貸出冊数の合計を聞いたところ、流行前の貸出冊数の平均が326冊だったのに対し、流行後は約700冊と倍以上に増加している」との報告がある。

（新型コロナウイルスによる電子書籍を活用した取り組みへの影響）



（新型コロナウイルスの流行前後における電子書籍の1か月間の貸出冊数の推移）



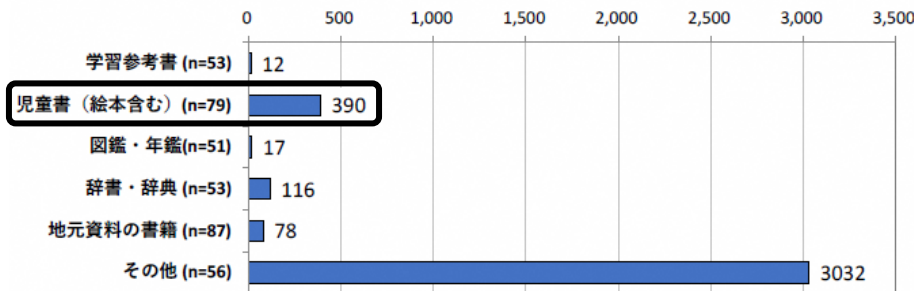
（令和2年度「子供の読書活動の推進等に関する調査研究」調査報告書〔株式会社リベルタス・コンサルティング 令和3年〕より）

(参考) 他の自治体における電子書籍に関する取り組み状況  
(公立図書館における電子書籍の導入状況)

	全体	すべての公立図書館で電子書籍の貸出を行っている	一部の公立図書館で電子書籍の貸出を行っている	現在公立図書館では電子書籍の貸出を行っていないが、今後行う予定が具体的にある	現在公立図書館では電子書籍の貸出を行っていないが、実施を検討している	公立図書館で電子書籍の貸出を行う予定はない	その他	無回答
全体	1178 ( 100.0%)	107 ( 9.1%)	8 ( 0.7%)	55 ( 4.7%)	264 ( 22.4%)	689 ( 58.5%)	22 ( 1.9%)	33 ( 2.8%)
都道府県	46 ( 100.0%)	6 ( 13.0%)	1 ( 2.2%)	2 ( 4.3%)	16 ( 34.8%)	18 ( 39.1%)	2 ( 4.3%)	1 ( 2.2%)
政令指定都市	20 ( 100.0%)	7 ( 35.0%)	0 ( 0.0%)	2 ( 10.0%)	8 ( 40.0%)	2 ( 10.0%)	1 ( 5.0%)	0 ( 0.0%)
市	631 ( 100.0%)	77 ( 12.2%)	5 ( 0.8%)	41 ( 6.5%)	179 ( 28.4%)	307 ( 48.7%)	10 ( 1.6%)	12 ( 1.9%)
区	21 ( 100.0%)	2 ( 9.5%)	1 ( 4.8%)	3 ( 14.3%)	10 ( 47.6%)	5 ( 23.8%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)
町	400 ( 100.0%)	15 ( 3.8%)	1 ( 0.3%)	6 ( 1.5%)	48 ( 12.0%)	309 ( 77.3%)	8 ( 2.0%)	13 ( 3.3%)
村	60 ( 100.0%)	0 ( 0.0%)	0 ( 0.0%)	1 ( 1.7%)	3 ( 5.0%)	48 ( 80.0%)	1 ( 1.7%)	7 ( 11.7%)

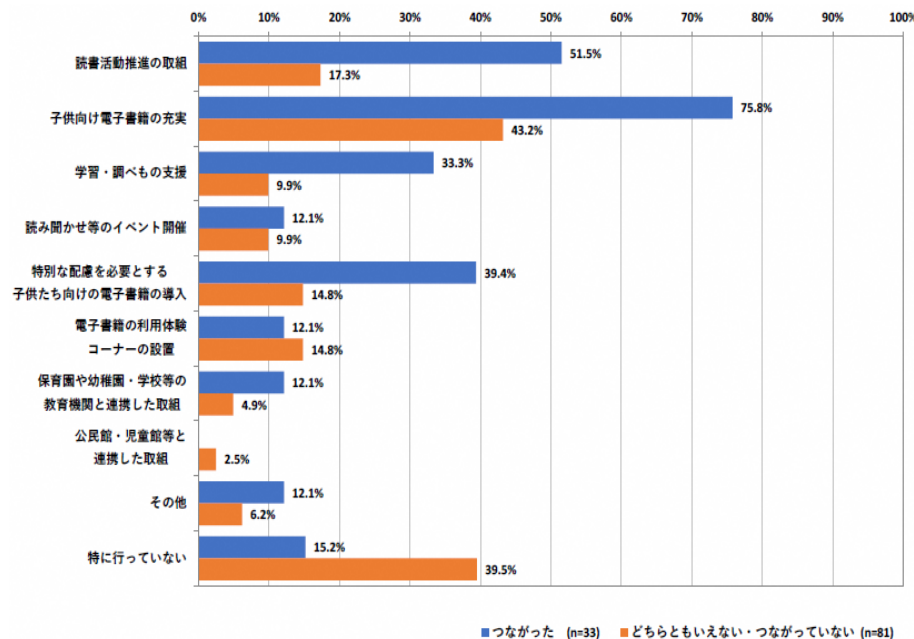
1,132 市町村中、101 市区町村の全公立図書館において、貸出しを行っている。(全体の 8.9%)

(電子書籍の貸出を行っている自治体のコンテンツ別平均所有冊数)



「実用書」「文芸書」などの「その他」に次いで「児童書」が多い。(枚方市は令和 3 年 8 月現在、435 冊の児童書 [電子書籍] を所蔵)

(電子書籍の活用が児童・生徒の読書活動推進に「つながった」と回答した自治体は、そうでない自治体の取組内容)



電子書籍の活用が児童・生徒の読書活動推進に「つながった」と回答した自治体は、「子供向け電子書籍の充実」「読書活動推進の取組」「特別な配慮を必要とする子供たち向けの電子書籍の導入」「学習・調べもの支援」などの取組を行っている割合が高い

(令和 2 年度「子供の読書活動の推進等に関する調査研究」調査報告書 [株式会社リベルタス・コンサルティング 令和 3 年] より)